

過去500年間のアンダマン海沿岸環境の復元 Reconstruction of Andaman Sea coastal environment during the past 500 years

太田 雄貴^{1*}; 川幡 穂高¹; 横山 祐典²; 村山 雅史³; 井上 麻夕里⁴; 宮入 陽介²
OTA, Yuki^{1*}; KAWAHATA, Hodaka¹; YOKOYAMA, Yusuke²; MURAYAMA, Masafumi³; INOUE, Mayuri⁴; MIYAIRI, Yousuke²

¹ 東京大学大気海洋研究所, ² 東京大学 大気海洋研究所 海洋底科学部門/地球表層圏変動研究センター, ³ 高知大学海洋コア総合研究センター, ⁴ 岡山大学大学院自然科学研究科

¹ Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo, ² Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, ³ Center for Advanced Marine Core Research, Kochi University, ⁴ Department of Earth Sciences, Okayama University

アンダマン海はインド洋北部に位置する縁海でベンガル湾と接している。アンダマン海の海底堆積物は主にエーヤワディーサルウィーン川と、インドモンスーンに伴う表層流によってベンガル湾から供給される。このことからアンダマン海の沿岸環境変化の復元は人々の生活に重要な気候システムの理解に不可欠であるにも関わらず、未だ復元例はほとんどない。本研究では水深75mのアンダマン海沿岸域(15°N, 96°E, ミャンマー南西部)から得られた海洋堆積物コア(コア長: 485cm)を用いてこの地域の過去500年間の堆積環境を復元した。¹⁴C年代測定結果から、深度約150~170cm(約1600~1750cal yr A.D)の間で堆積速度が減少していることが明らかとなった。また粒度分析の結果、深度約150~170cmは細粒化していた。よってこの時期の河川等起源の堆積物供給量が減少したことが示唆され、陸域での降水量の減少など何らかの環境変化が反映されている可能性がある。

キーワード: 堆積環境, アンダマン海, 粒度分析

Keywords: sedimentary condition, Andaman Sea, grain size analysis